

## 2024 高校野球観戦記

7月16日(火) 14:30 神栖一中での進路説明会が終わって、車に戻った。タブレットを開いて、高校野球バーチャル動画を見る。そこには土のついたユニホームで誇らしく校歌を歌う、清真学園野球部18名がいた。

2回戦は厳しい試合だった。2点を先制するも、7回に4点を奪われ逆転される。最終回9番からの攻撃。ここで代打の切り札、1年生の笹本がヒットを打つと、達崎が続く。1アウト1・2塁。ここでエース川口に打順が回る。6年間の想いをこめた打球はライトの奥へと飛んでいった。

中学時代、今の高3野球部は川口と現キャプテンの菅澤の2名だけだった。『9名の部員を集めよう』それがチームの目標だった。しかし、部員は増えなかった。保護者から『部員を集めることはできないのですか?』と聞かれた時、『そのうち、フィールド オブ ドリームスのようにその木から大勢の部員が現れますよ。』と言うと、保護者は苦笑いした。

川口・菅澤が中3の時、神栖一中と合同チームを組み、大会直前に初めての合同練習を清真グラウンドで行った。(よろしければ本校HP下の『CHOSHI』をご一読ください)川口が言った。『俺、清真のグラウンドのバッターボックスから打つの、今日初めてです。』人数が少ないのでグラウンド横の鳥かごの中でしか練習はできなかった。

川口・菅澤が高校1年生になると、鹿島中の野球部から達崎が入部、波崎二中から野球経験の無い原も入部した。しかし、高校3年生が引退すると、高校2年生の部員はいないため、また部員は数名になった。達崎は大きな怪我をして、半年ほど練習に加わることができなかった。中学生も部員が少なく、中・高併せて9名がやっとだった。

しかし、予想外のことが起こる。野球経験の無い高校1年生が次々と入部した。『中村、高木、嶋田、宇井』 達崎が復帰し、1年生2名が入部すると選手は10名になり単独チームで昨年の夏の大会に臨んだ。一つのアウトをとるのも大変だったが、何とかやりきった。

今年14年ぶりに夏の大会に2勝し、3回戦に進出した。2回戦の2点目は高校から野球を始めた宇井の右中間を破る3塁打からだった。そして、3回戦のスターティングには『1番 嶋田、2番 原』と1・2回戦とは違う名前が続いた。

今年、8名の高校1年生の選手と2名のマネージャーが入部した。中学1年生の入部者は12名になった。6月に行われたオープンスクールの野球の講座には、10名を超える小学5・6年生が参加し、グラウンドは40名を超える人で溢れた。高校3年生の残した足跡が清真学園の野球部の潮目を変えてくれたようだ。

野球部の皆様、保護者の方々、そして暑い中、応援して下さった応援団、チアガール、音楽部の皆様方、本当にありがとうございました。そして9名の高校3年生の皆様、お疲れ様でした。

中学野球部顧問 押見弘一